



障がいのある人の ワークスタイル

働き方改革や企業の障害者雇用率制度、合理的配慮の考え方などによって、障がいがある方の働く場や働き方は変化しています。そうした中で、障がいのある方々はどのようなワークスタイルをとっているのでしょうか。果たして、働きやすい環境の中、自分に合った働き方をしているのでしょうか。

今回は3名の心理士の先生方に、障がいを持つ人との関わりの中で感じることを、そして障がい当事者の立場から感じることをお話いただきます。



2025年 **8月30日** (土)

13:00-16:00 オンライン開催
(Zoom)

事前登録制
先着順

※申込締切
8月25日

参加費無料
定員500名

※入退室自由

参加方法

Zoom Video Conferenceにアクセスすることでご参加いただけます。録画・録音はご遠慮ください。
※インターネットに接続しているパソコン、タブレット、スマートフォンが必要です。
通信料は参加者負担となります。

申込方法

日本心理学会HPにてご案内しております下記申込サイトより、該当の「イベント名」と「開催日」をご確認の上、事前に必要事項のご登録をお願いします。
ご登録された方には確認メールが届きますので、当日は確認メールの「ウェビナーに参加」よりご参加ください。

申し込みサイト:

<https://psych.or.jp/authorization/ninteinokaievent/>



問い合わせ先

公益社団法人日本心理学会事務局

電子メール

jpa-ninnokai-event@psy.or.jp

プログラム

開場: 12:50 開会挨拶: 13:00-13:05

13:05-13:45 神近 裕樹 先生(近畿大学)

「視覚障がいのある方への心理支援に携わって感じたこと」

私は視覚障がいのある方々が社会生活を円滑に送れるように知識や技能を習得したり、三療師(あん摩、はり、きゅう)の資格取得ができる施設にて非常勤心理士として勤務しています。実際に仕事に就いている方が一旦休職して当施設を利用される場合もありますが、中途失明の方々はそれまで就いていた仕事を継続することが難しくなり、三療師を目指すといった方々も少なくありません。当施設を利用しながら、職場復帰や三療師を目指す中での葛藤や困りごとなどについて私が感じていることをお話しできればと考えています。

13:55-14:35 足立 友理 先生(福岡歯科大学)

「それぞれの生活に困難さを抱えた人たちへの病院臨床及び学生相談の症例」

私はこれまで10年以上病院臨床に携わった後、今は学生相談の世界で心理士として活動しています。そして、どちらの世界でも数多くの「生活の困難さ」を抱えている方々とお会いしてきました。彼ら皆が「障がい者」という意識はなくても、生活上の「困難」を抱えた人たちです。今回は、これまで携わった事例を通して、臨床心理士として携わった支援の一部をお伝えしたいと考えています。

14:35-15:15 島田 乃梨子 先生(九州大学)

「身体障害当事者としての働き方と当事者グループを通じた心理支援」

私は脳性麻痺による身体障害があります。現在は臨床心理士・公認心理師として大学の相談機関で勤務しており、心理支援の専門職として活動する一方で、障害当事者としての日常生活や仕事を営んでいます。今回は、障害当事者としての立場から、どのように働き、暮らしているかについてお話しします。また、心理臨床の実践として取り組んでいる障害当事者グループの活動もご紹介し、グループの中で出てくる「働き方」や「仕事にまつわる困りごと」といったテーマに対して、どのような支援を行っているか、具体例を交えてお伝えできればと思います。

総合議論: 15:30-15:55 閉会挨拶: 15:55-16:00

企画・司会/三上聡美(中村学園大学)